

米企業決算でAIバブルへの懸念を払拭できるか

チーフ・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① MAG7が全体をけん引する流れ続く公算

米企業の決算発表がよいよ本格化します。今回も焦点は米マイクロソフトなど米大手ハイテク7社で構成するマグニフィセント・セブン（以下MAG7）です。足元の業績は堅調で、7-9月期の純利益は前年同期比14.4%増と見込まれており、S&P500全体の利益成長をけん引する見通しです（右上図）。

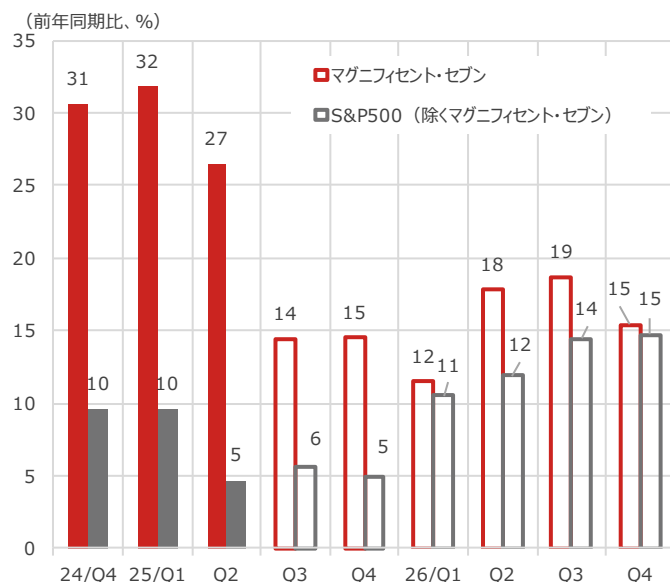
一方、MAG7を除くS&P500構成企業の増益率は同5.6%増にとどまる見込みです（同図）。関税負担の影響等が重しになるとみられ、業種によって明暗が分かれそうです。市場ではAI（人工知能）関連銘柄への物色集中が続く中、「AIバブルではないか」との見方も意識されています。今回の決算では、こうした懸念を払拭できるかが焦点といえます。

ポイント② IMFのバブルへの警鐘を払拭できるか

14日時点のS&P500の12ヵ月先予想PERは22.5倍と高水準にあり、業績の裏付けがなければバリュエーション調整が起こりやすい環境にあると考えられます（右下図）。その意味では、今回の決算発表で米テック企業の利益成長の高さが確認されるかどうかAI相場持続の試金石になるといえます。

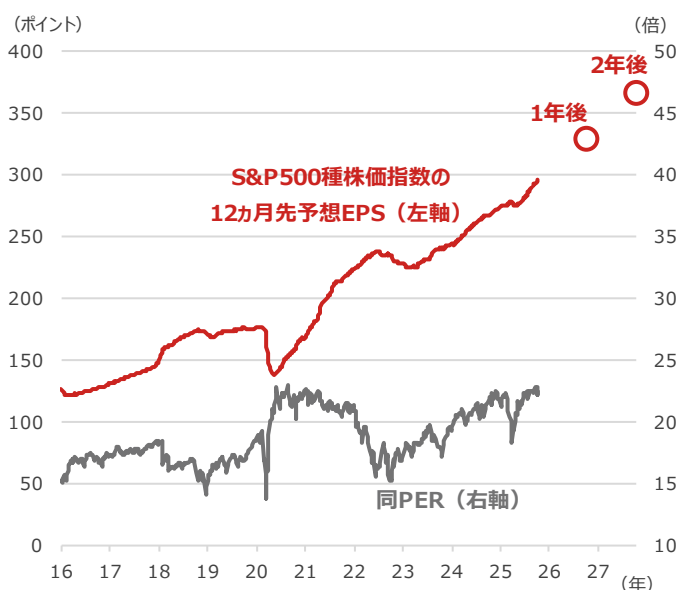
IMF（国際通貨基金）は14日公表の世界経済見通しで、下振れリスクの1つに「AIへの過度な成長期待」を挙げました。期待が後退すれば株価急落の恐れがあるとし、00年代初めのIT（情報技術）バブル崩壊を引き合いに出して警戒感を示しました。ただ、生成AI市場は32年に24年比で約9倍の1.8兆米ドルへ拡大するとみられており、短期的な調整はあり得るものの、生成AI市場の成長性の高さを踏まえれば、今回の懸念は成長過程の一時的な揺り戻しにとどまる可能性が高そうです。

S&P500種株価指数（除くマグニフィセント・セブン）とマグニフィセント・セブンの純利益増減率



期間：2024年Q4（10-12月期）～2026年Q4、四半期
・2025年Q3（7-9月期）以降はBloomberg予想（2025年10月3日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）と同PER（株価収益率）



期間：2016年1月8日～2025年10月14日、週次
・印は1年後、2年後の12ヵ月先予想EPS（2025年10月14日時点のBloomberg予想）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2025年10月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家がその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

当資料で使用した指数について

●「S&P500種株価指数」はスタンダード・アンド・プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標です。